

尼崎市立歴史博物館第9回企画展

観覧無料

尼崎紡績 —工都尼崎のはじまり—

現存する尼崎最古の洋館であり、工業都市尼崎発展の契機となった尼崎紡績に関して尼崎に残る唯一の建築物である旧尼崎紡績本社事務所（ユニチカ記念館）が尼崎市の所有になったことを記念して、同記念館旧蔵資料も活用し、尼崎紡績の歴史を紹介します。

尼崎紡績株式会社全景（部分、明治35年、当館所蔵）

令和5年(2023)7月8日(土)～9月3日(日)

開館時間 午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)

休館日 月曜日、ただし7月17日(月・祝日)は開館し、翌日休館

会場 尼崎市立歴史博物館 3階 企画展示室

水曜歴史講座 受講無料

日時 7月12日(水) 午後2時～4時

演題 尼崎紡績—工都尼崎のはじまり—

講師 当館学芸員

会場 当館 3階 講座室

申込 7月5日(水)から電話・FAX受付 定員先着70名

ギャラリートーク 参加無料

企画展会場で主な展示資料を解説します。

日時 7月8日(土)・30日(日)、8月13日(日)、
9月2日(土) 各日午後2時～3時

会場 当館 3階 企画展示室

申込 事前申込不要 定員当日先着各20名

同時開催

歴史博物館ができるまで

構想開始から令和2年(2020)10月の開館まで、30年以上に及んだ尼崎市立歴史博物館の開館までの歩みを紹介します。

会場:3階 展示学習室 観覧無料



旧尼崎紡績本社事務所



尼崎市立歴史博物館
AMAGASAKI CITY MUSEUM OF HISTORY



〒660-0825 兵庫県尼崎市南城内10番地の2

電話 06-6489-9801(歴史博物館文化財担当)

電車・バス…阪神尼崎駅から南東へ徒歩約10分

自動車…玉江橋線開明橋交差点から東へ約500m

隣接する市立城内駐車場(有料)をご利用ください

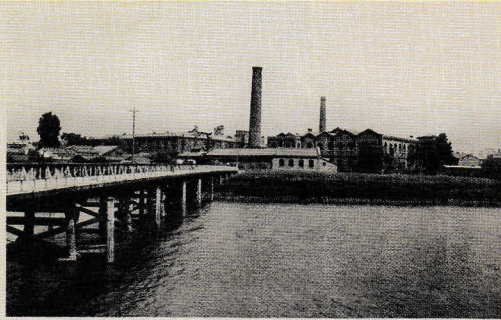
https://www.city.amagasaki.hyogo.jp/manabu/bunkazai_0/index.html



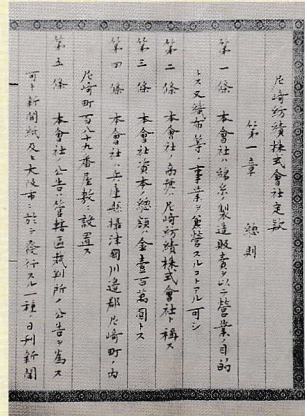
阪神尼崎駅からの徒歩ルート

○尼崎紡績の設立

江戸時代は城下町として栄えた尼崎でしたが、幕末・維新时期には町は疲弊し経済は停滞していました。このような状況を打破し尼崎の町に再び繁栄を取り戻すため、尼崎の商人や旧尼崎藩士らは、綿糸紡績の大工場を尼崎に設立することを考えました。しかし、尼崎の資本力だけでは大工場設立は不可能でしたので、大阪財界を頼ることとし、両者の共同出資により、明治22年(1889)尼崎紡績会社が設立されました。尼崎紡績は尼崎町のうち辰巳町(現在の尼崎市東本町)に煉瓦造2階建の大工場を建設し、明治24年(1891)に操業を開始しました。これは兵庫県下では初の1万錠規模の大紡績工場でした。



▲尼紡本社絵葉書「辰巳橋ヨリニ崎紡績本社ヲ望ム」



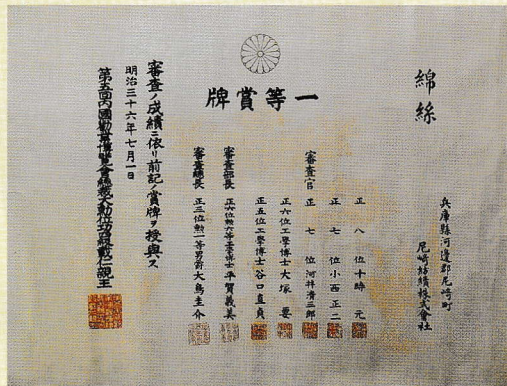
▲尼崎紡績会社定款



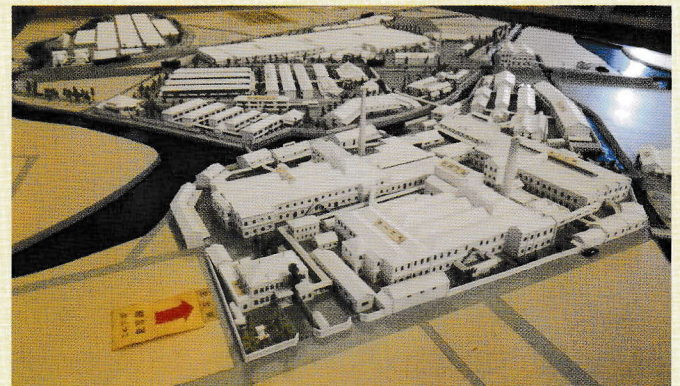
▲鹿児島から初めて来た女性工員たち

○尼崎紡績の発展

尼崎紡績は、技術的に困難とされた細番手・中番手の綿糸生産に主力を注ぎ、他社を合併しながら企業規模を拡大していきました。そして、大正7年(1918)には摂津紡績を合併して社名を大日本紡績と改め、日本最大の紡績会社へと発展していきました。また、この尼崎紡績の成功が契機となり、尼崎南部で工業が発展していくことになりました。



▲第五回内国勲業博覧会一等賞牌



▲大日本紡績ニ崎工場模型

○尼崎紡績本社事務所の歩みと歴史的意義

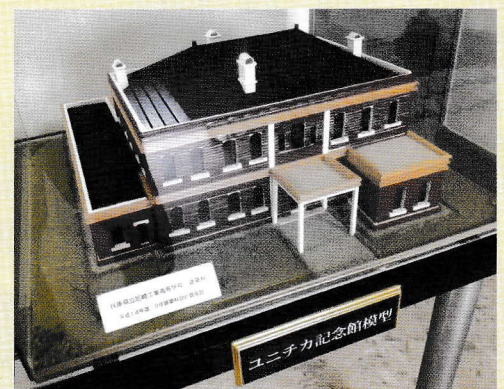
尼崎紡績では、明治32年(1899)、尼崎本社工場内に本社事務所を新築することを決定し、翌年、煉瓦造2階建の本社事務所が竣工しました。昭和20年(1945)の空襲で尼崎工場は大被害を受け、尼崎での綿糸生産は事実上終止符を打ちましたが、旧尼崎紡績本社事務所(旧事務所)は戦災を免れ、昭和34年(1959)から日紡記念館(後にユニチカ記念館)として一般公開されました。旧事務所は、現存する尼崎市市内最古の洋風建築物であり、尼崎紡績に関して市内に現存している唯一の建築物です。いわば、工業都市尼崎の歩みを象徴するシンボルともいべき建築物ですので、令和5年(2023)3月、尼崎市が旧事務所を取得し、市民共有の歴史遺産として保存・活用していくことになりました。



▲尼紡本社絵葉書タトウ
(大正初期頃の本社事務所が奥に見える)



▲昭和30年頃の旧事務所



▲ユニチカ記念館模型

※都合により写真の資料を展示しない場合があります。